



平成20年11月期
決算説明会



玄品グループ
株式会社 関門海

<http://www.kanmonkai.co.jp>

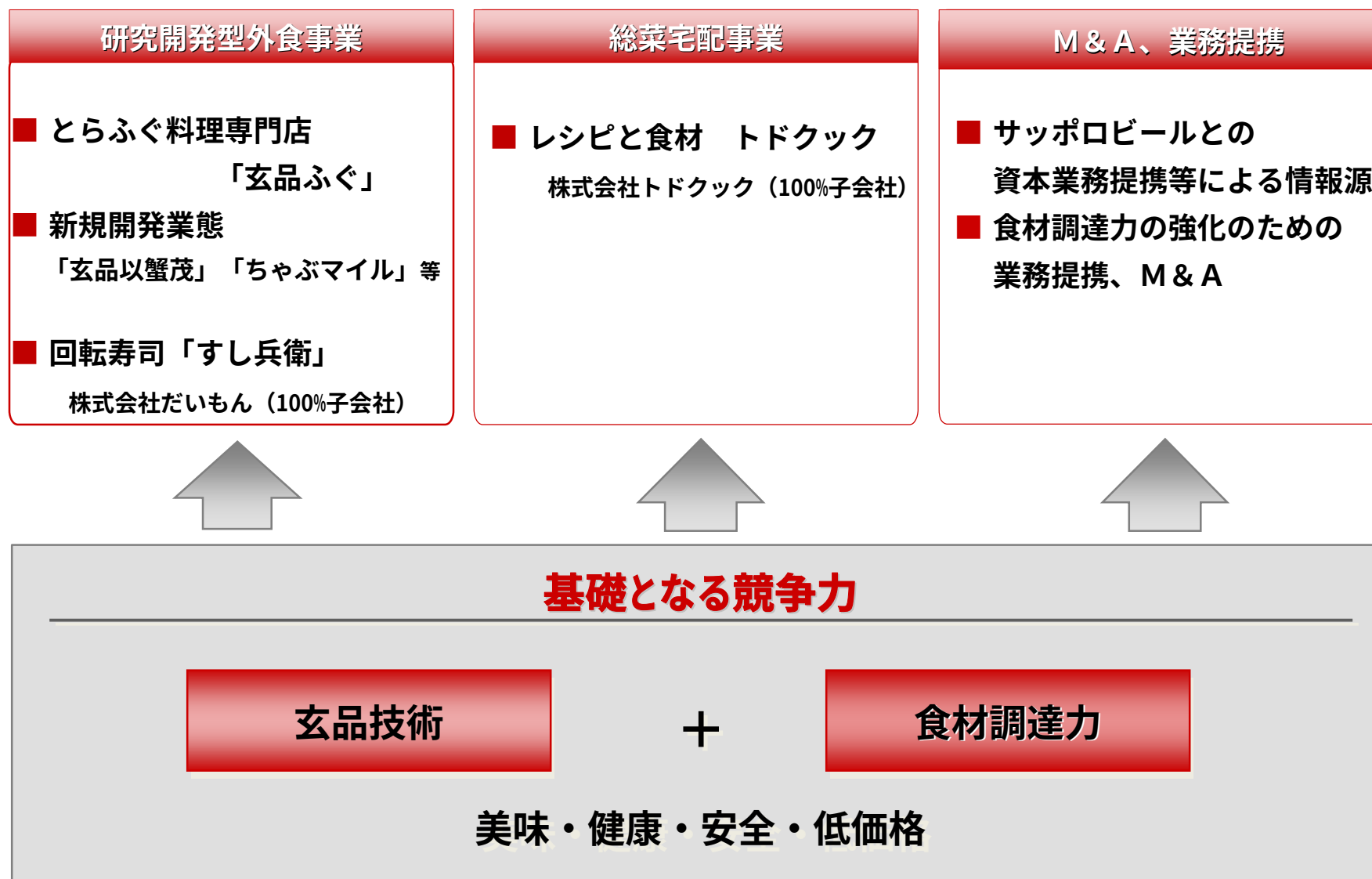
会社概要／玄品グループ

Company Summary

■ 商 号	株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.
■ 設 立	平成元年 5月
■ 代 表 者	代表取締役会長兼社長 グループCEO 谷間 真
■ 子 会 社	株式会社トドック (※) 株式会社だいもん 株式会社富士水産 有限会社しまや酒店 ※株式会社カネジと株式会社アクト・デリカが平成20年12月1日付で 合併し、商号を株式会社トドックへ変更いたしました。
■ 事業内容 (セグメント)	・研究開発型外食事業 ・総菜宅配事業 ・食材卸その他の事業
■ 従 業 員	197名 (581名) ※ () 内はグループ従業員数
■ 店 舗 数	グループ全体：143店舗 (期末日現在) ・玄品ふぐ：117店舗 ・その他：26店舗
■ 資 本 金	3億2,392万円

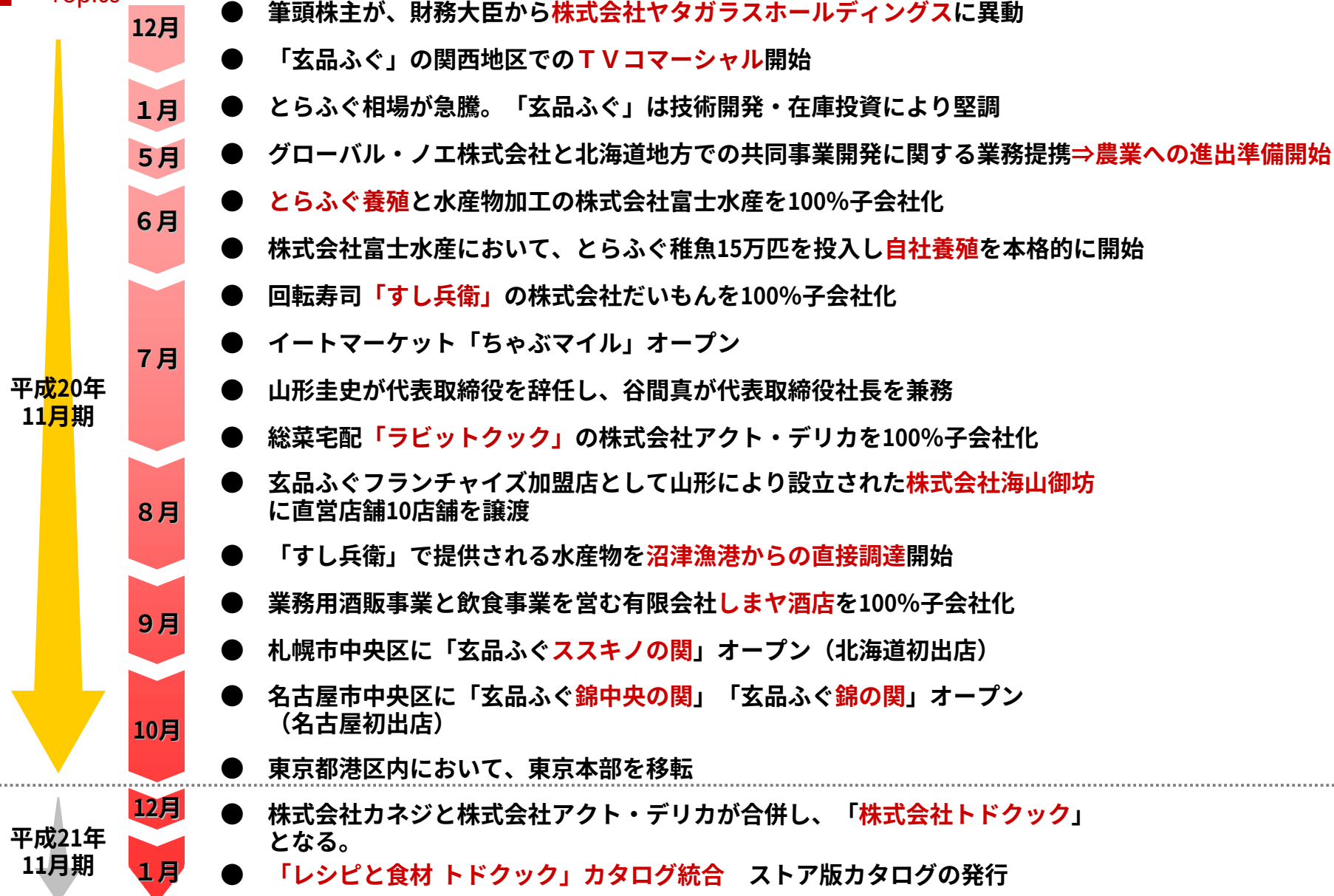
ビジネスモデル

Business Model



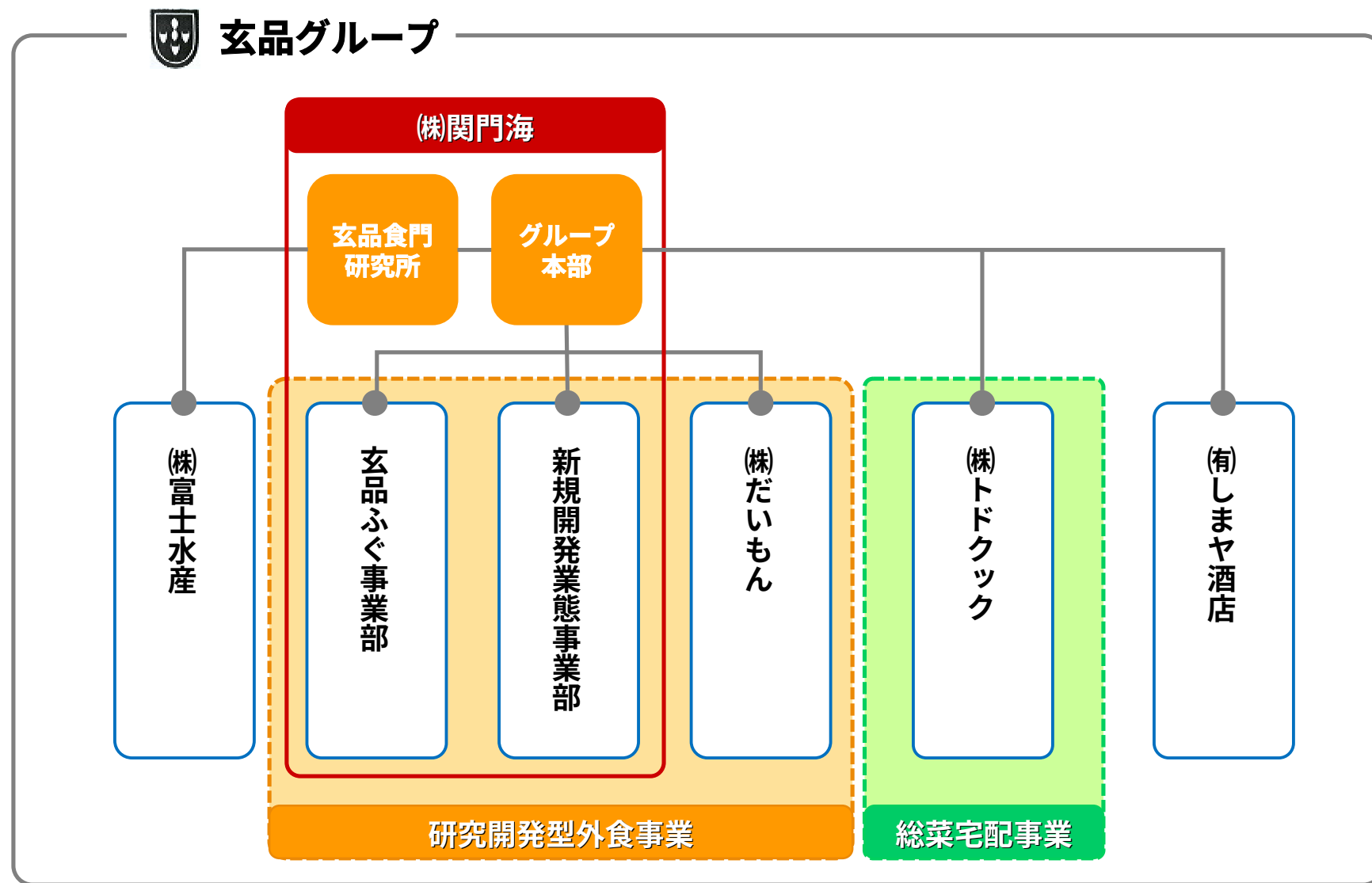
トピックス

Topics



グループ図

Group





平成20年11月期 決算概要

■ 平成21年11月期 計画

決算概要／損益計算書

Accounting Outline

(単位：百万円)

	平成20年11月期 (実績)		平成19年11月期 (実績)			平成20年11月期 (計画)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比	金額	百分比	計画比
売上高	11,313	100.0%	9,078	100.0%	24.6%	11,800	100.0%	△4.1%
研究開発型外食事業	7,393	65.3%	6,733	74.2%	9.8%	7,550	64.0%	△2.1%
総菜宅配事業	3,742	33.1%	1,965	21.7%	90.4%	3,960	33.6%	△5.5%
その他の事業	178	1.6%	379	4.2%	△53.0%	290	2.5%	△38.4%
売上原価	4,219	37.3%	3,147	34.7%	34.1%	4,500	38.1%	△6.2%
売上総利益	7,094	62.7%	5,931	65.3%	19.6%	7,300	61.9%	△2.8%
販売費及び一般管理費	6,655	58.8%	5,539	61.0%	20.2%	6,800	57.6%	△2.1%
営業利益	438	3.9%	392	4.3%	11.8%	500	4.2%	△12.3%
営業外収益	35	0.3%	16	0.2 %	117.3%	30	0.3%	+18.3%
営業外費用	99	0.9%	90	1.0 %	10.6%	110	0.9%	△9.2%
経常利益	374	3.3%	318	3.5 %	17.5%	420	3.6%	△10.9%
特別利益	134	1.2%	0	0.0 %	—	△70	△0.6%	△292.5%
特別損失	166	1.5%	384	4.2 %	—	—	—	—
税金等調整前当期純利益	342	3.0%	△66	△0.7 %	—	350	3.0%	△2.2%
法人税等	186	1.6%	△0	△0.0 %	—	140	1.2%	+33.2%
当期純利益	155	1.4%	△65	△0.7 %	—	210	1.8%	△25.7

1 連結売上高24.6%増加

- 研究開発型外食事業は、(株)だいもんのM & A等により9.8%増加
- 総菜宅配事業は、(株)カネジの通年寄与、(株)アクト・デリカのM & Aにより90.4%増加
- その他の事業の減少は、前期の再建支援のための(株)かね治への食材供給による

2 売上総利益率は2.6%ダウン 販売費及び一般管理費は1,116百万円増加

- 総菜宅配事業の売上増加により売上総利益は2.6%ダウン。
- 販売費及び一般管理費はM & Aにより増加

3 営業利益 11.8%増 経常利益 17.5%増

- 営業利益、経常利益は総菜宅配事業の損失が発生したが、研究開発型外食事業が堅調な事に加え、店舗譲渡等による収益により増益を確保

4 特別利益及び特別損失

- 特別利益は主に固定資産売却益42百万円、店舗立退補償金85百万円
- 特別損失は主に店舗閉鎖損失59百万円、解約違約金54百万円、店舗の減損損失27百万円

5 税金等調整前当期純利益、当期純利益は黒字化

決算概要／セグメント別

Accounting Outline

(単位：百万円)

	平成20年11月期			平成19年11月期			増減	
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益
研究開発型外食事業	7,393	1,029	13.9%	6,733	604	9.0%	+659	+425
玄品ふぐ事業	5,656	893	15.8%	6,307	684	10.9%	△651	+209
その他業態	1,479	△60	△4.1%	425	△80	△18.9%	+1,054	+20
店舗譲渡による収益	257	196	76.3%	—	—	—	+257	+196
総菜宅配事業	3,742	△171	△4.6%	1,965	61	3.1%	1,776	△233
その他の事業	178	25	14.1%	379	83	22.1%	△201	△58
合 計	11,313	883	7.8%	9,078	750	8.3%	+2,235	+133
全社共通費用・消去	—	△444	—	—	△357	—	0	△86
連 結	11,313	438	3.9%	9,078	392	4.3%	+2,235	+46

1 研究開発型外食事業

- 玄品ふぐ
 - ・売上高は直営店舗のF C化により減少
 - ・利益は本部コスト、物流費圧縮147百万円とF C店舗の増加が増益要因
- その他の業態
 - ・売上高は大幅に増加。不採算店舗により損失計上
- F C加盟店への店舗譲渡による収益発生

2 総菜宅配事業

- カネジの損失に加え、アクト・デリカの損失62百万円、統合関連費用が発生

3 その他の事業

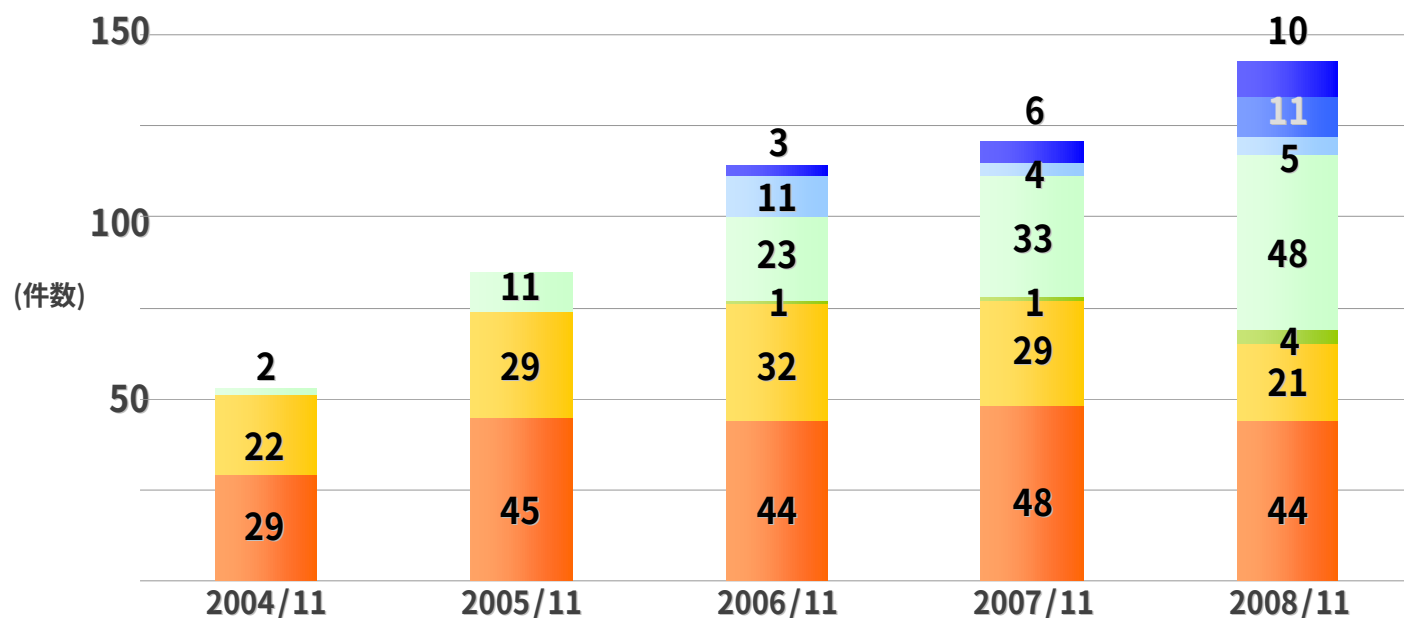
- 売上高は、前期に民事再生中の株式会社かね治へ総菜宅配用の食材を供給
- 営業利益は、活とらふぐの価格の高騰や富士水産の水産加工品の製造販売事業において損失計上

4 全社共通

- 管理コスト等の増加

トピックス／店舗推移グラフ

Topics



項 目	2004/11	2005/11	2006/11	2007/11	2008/11	前期末比
玄品ふぐ	53	85	100	111	117	+6
● 関東直営	29	45	44	48	44	△4
● 関西直営	22	29	32	29	21	△8
● その他直営	—	—	1	1	4	+3
● F C	2	11	23	33	48	+15
● 玄品以蟹茂	—	—	11	4	5	+1
● すし兵衛	—	—	—	—	11	+11
● その他	—	—	3	6	10	+4
合 計	53	85	114	121	143	+22

1 玄品ふぐ

- 地方都市への出店 3店舗
 - ・ 札幌 1店舗
 - ・ 名古屋 2店舗
- F C店舗の出店 3店舗

2 玄品以蟹茂

- 商業ビルへの出店 1店舗

3 すし兵衛

- (株)だいもんのM & Aによる子会社化 11店舗

4 その他

- (有)しまや酒店のM & Aによる子会社化 2店舗
- イートマーケット「ちゃぶマイル」等 2店舗

合計 **9** 店舗の新規出店

とM & Aによる **13** 店舗の増加

決算概要／貸借対照表①

Accounting Outline

(単位：百万円)

	平成20年11月期末		平成19年11月期末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	4,431	48.5%	3,818	49.8%	+612
現金及び預金	1,145	12.5%	947	12.4%	+198
売掛金	552	6.0%	484	6.3%	+67
たな卸資産	2,284	25.0%	2,089	27.3%	+195
その他	466	5.1%	299	3.9%	+167
貸倒引当金	△18	△0.2%	△1	△0.0%	△16
固定資産	4,706	51.5%	3,845	50.2%	+861
有形固定資産	2,806	30.7%	2,713	35.4%	+92
建物及び構築物	1,951	21.4%	1,856	24.2%	+95
機械装置及び運搬具	83	0.9%	124	1.6%	△40
土地	462	5.1%	349	4.6%	+113
その他	308	3.4%	383	5.0%	△75
無形固定資産	675	7.4%	101	1.3%	+574
のれん	574	6.3%	3	0.1%	+571
その他	100	1.1%	97	1.3%	+3
投資その他の資産	1,224	13.4%	1,030	13.4%	+193
資産合計	9,137	100.0%	7,663	100.0%	+1,473

1 たな卸資産195百万円の増加

- (株)富士水産の子会社化により、とらふぐ養殖を本格的に開始
育成中のとらふぐ、約20万匹、143百万円が主な増加要因

2 有形固定資産92百万円の増加

- (株)だいもんの子会社化によって店舗設備205百万円、土地113百万円が増加
今後は減価償却により減少する見込み

3 のれん571百万円の増加

- 子会社化した4社ののれん代として計上
今期ののれん償却費20百万円を計上

決算概要／貸借対照表②

Accounting Outline

(単位：百万円)

	平成20年11月期末		平成19年11月期末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動負債	4,415	48.3%	3,721	48.6%	+ 693
支払手形及び買掛金	491	5.4%	499	6.5%	△8
短期借入金	1,450	15.9%	1,100	14.4%	+ 350
1年以内返済予定長期借入金	1,241	13.6%	1,218	15.9%	+ 23
未払金	679	7.4%	709	9.3%	△29
未払法人税等	194	2.1%	35	0.2%	+ 158
未払消費税等	111	1.2%	54	0.7%	+ 56
その他流動負債	246	2.7%	104	1.4%	+ 142
固定負債	3,315	36.3%	2,486	32.4%	+ 829
長期借入金	3,035	33.2%	2,382	31.1%	+ 652
その他固定負債	280	3.1%	103	1.4%	+ 176
負債合計	7,731	84.6%	6,208	81.0%	+ 1,522
純資産	1,406	15.4%	1,455	19.0%	△48
資本金	323	3.5%	306	4.0%	+ 17
資本剰余金	432	4.7%	415	5.4%	+ 17
利益剰余金	827	9.1%	734	9.6%	+ 93
自己株式	△187	△2.0	—	—	△187
その他	9	0.1%	—	—	+ 9
負債・純資産合計	9,137	100.0%	7,663	100.0%	+ 1,473
有利子負債	5,726	62.7%	4,700	61.3%	+ 1,026

1 有利子負債1,026百万円増加

- (株)だいものの有利子負債476百万円及び子会社増加に伴う運転資金の増加
来期より有利子負債は圧縮の方向

2 自己株式187百万円増加

- 旧経営陣の株式の一部買取によるもの

決算概要／キャッシュ・フロー計算書

Accounting Outline

(単位：百万円)

	平成20年11月期	平成19年11月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	857	353	+504
税金等調整前当期純損益	342	△66	+408
減価償却費等	578	531	+46
たな卸資産の増加額	△143	△295	+152
長期前受収益の増加額	187	—	+187
その他	△107	183	△290
投資活動によるキャッシュ・フロー	△844	△1,352	+507
有形固定資産の取得による支出	△340	△1,291	+950
関係会社株式の取得による支出	△420	—	△420
その他	△83	△61	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	185	1,358	△1,172
短期借入金の増減	302	500	△197
長期借入金の増減	128	933	△804
自己株式の取得による支出	△187	—	△187
配当金の支払額	△61	—	△61
その他	3	△75	+78
現金及び現金同等物の増減額	198	358	△160
現金及び現金同等物の期首残高	894	535	+358
現金及び現金同等物の期末残高	1,092	894	+198

1 営業活動により得られたキャッシュ・フロー 504百万円の増加

- 税金等調整前当期純利益の改善、サポートビルとの業務提携に伴う長期前受収益の増加等

2 投資活動により使用したキャッシュ・フロー 507百万円の減少

- 新規出店等の抑制により有形固定資産の取得による支出は950百万円減少
- M & Aに伴う関係会社株式の取得による支出

3 財務活動により得られたキャッシュ・フロー 1,172百万円の減少

- 新規出店等の抑制により、借入金による資金調達の減少
- 自己株式取得、配当金の支払による支出

■ 平成20年11月期 決算概要

平成21年11月期 計画

平成21年11月期計画／研究開発型外食事業

Plan

玄品ふぐ

その1 これまで

- 9月以降の景気悪化により、既存店売上高が低下

12月は企業忘年会のキャンセル等の影響で
前年実績を下回った

- 平成21年1月は回復

- 関東でのTVCMは売上向上に効果あり

その2 今後の計画

- 新規出店を抑制し、既存店舗の改善に努める
- 平成21年11月期は、既存店前年比△7.4%で計画

その他

その1 直近の状況

不採算店舗の発生

2店舗を閉鎖

その2 今後の計画

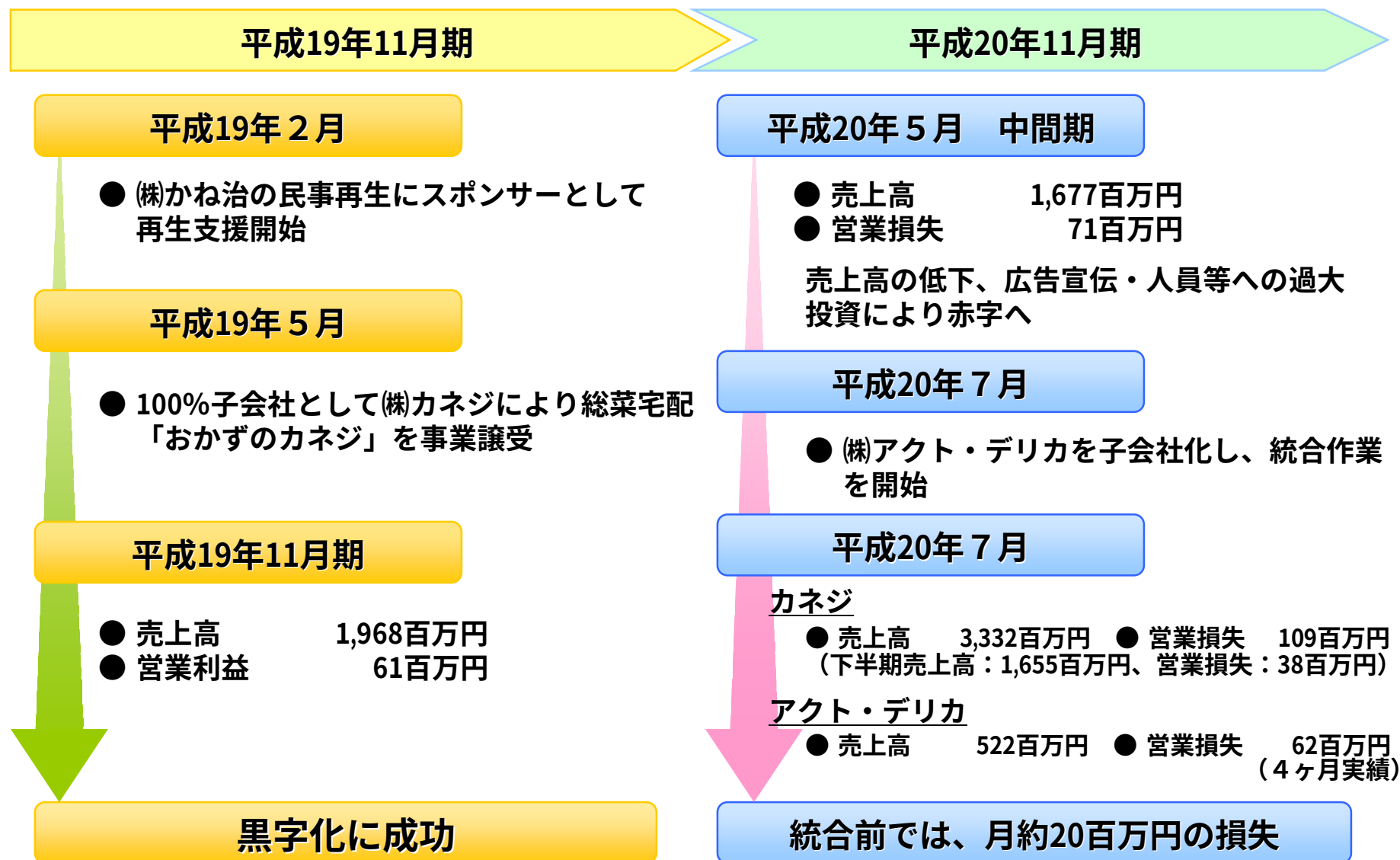
経済情勢が不安定

この情勢を鑑み慎重に出店を検討

※現在準備中、1店舗

平成21年11月期計画／総菜宅配事業 (実績)

Plan



平成21年11月期計画／総菜宅配事業（計画）

Plan

平成20年12月

- (株)カネジと(株)アクト・デリカが合併し、(株)トドックに

平成21年1月～

- 両社の事業名を「レシピと食材 トドック」に統合し、メニューを統合

カタログの統合により **5百万円** のコストダウン

平成21年2月～

- 営業所の統廃合の実施。現在17営業所を11営業所に統合

月額 **15百万円** のコストダウン⇒収支がバランス

平成21年3月～5月

- 配達コースの再編による効率化

月額 **20百万円** のコストダウン⇒**黒字化**

上半期に**単月黒字化**により、**通期黒字化**見込み

コストダウンの効果

5百万円

15百万円

20百万円

合計 **40百万円**

平成21年11月期計画／連結

Plan

(単位：百万円)

	平成20年11月期（実績）		平成21年11月期（予想）			
	金額	百分比	金額	百分比	増減	前年比
売上高	11,313	100.0%	12,500	100.0%	+1,187	+10.5%
研究開発型外食事業	7,393	65.3%	7,400	59.2%	+7	+0.1%
総菜宅配事業	3,742	33.1%	4,550	36.4%	+808	+21.6%
その他の事業	178	1.6%	550	4.4%	+372	+209.0%
売上原価	4,219	37.3%	5,250	42.0%	+1,031	+24.4%
売上総利益	7,094	62.7%	7,250	58.0%	+156	+2.2%
販売費及び一般管理費	6,655	58.8%	6,800	54.4%	+145	+2.2%
営業利益	438	3.9%	450	3.6%	+12	+2.7%
営業外収益	35	0.3%	35	0.3%	△0	△0.0%
営業外費用	99	0.9%	110	0.9%	+11	+11.1%
経常利益	374	3.3%	375	3.0%	+1	+0.3%
特別損益	△31	△0.3%	△175	△1.4%	△144	+464.5%
税金等調整前当期純損益	342	3.0%	200	1.6%	△142	△41.5%
法人税等	186	1.6%	80	0.6%	△106	△57.0%
当期純損益	155	1.4%	120	1.0%	△35	△22.6%

1 連結売上高10.5%増加

- 研究開発型外食事業は、玄品ふぐの直営店舗のF C化による売上減少と(株)だいもんのM & Aの通年寄与により横ばい（前期比0.1%増）
- 総菜宅配事業は、(株)アクト・デリカ分の通年寄与により21.6%増（前期比△7.4%で計画）
- その他の事業は、しまや酒店の酒販事業の通年寄与により増加

2 売上総利益率は4.7%ダウン、販売費及び一般管理費は145百万円増加

- 玄品ふぐのF C比率、総菜宅配事業の売上増加により売上総利益はダウン
販売費及び一般管理費は、徹底したコストダウンを行うが、グループ拡大に伴い増加

3 営業利益は2.7%増加、経常利益は0.3%増加

- 営業利益、経常利益は、総菜宅配事業の黒字化により利益は増加する見込み
平成20年11月期は店舗譲渡により収益計上

4 特別損益は、店舗閉鎖、トドクックの営業所統廃合等に伴う特別損失等を見込み当期純利益は22.6%減益予想

平成21年11月期計画／セグメント

Plan

(単位：百万円)

	平成20年11月期（実績）		平成21年11月期（計画）		増 減		前年比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
研究開発型外食事業	7,393	1,029	7,400	755	7	△274	+0.1%	△26.6%
玄品ふぐ	5,656	893	5,150	730	△506	△163	△8.9%	△18.3%
その他業態	1,479	△60	2,250	25	771	85	+52.1%	—
店舗譲渡による収益	257	196	—	—	△257	△196	—	—
総菜宅配事業	3,742	△171	4,550	120	808	291	+21.6%	—
その他の事業	178	25	550	25	372	0	+209.0%	+0.0%
合 計	11,313	883	12,500	900	1,187	17	+10.5%	+1.9%
全社共通費用	—	△444	—	△450	0	△6	—	+1.4%
連 結	11,313	438	12,500	450	1,187	12	+10.5%	+2.7%

1 研究開発型外食事業

- 玄品ふぐ
既存店前年比△7.4%で計画しているため、減益予想
- その他の業態
不採算店舗の閉鎖、だいもんの収益貢献により黒字化見込み

2 総菜宅配事業

- 事業統合による収益改善により黒字化

3 その他の事業

- 利益については、平成20年11月期と同程度

4 全社共通

- コストダウンにより、横ばい